

Subject: お世話になりました。

太田せんせい、

今日もまたごちそうになってしまいました。

おいしい夕食と楽しい時間をありがとうございました。

来て間もない時に訪れた所で最後にまた食事ができたことで、本当に留学生活が終わるのだなあ、と今ひしひしと感じています。

8月末から約9ヶ月の留学生活の終焉と同時に、2ヶ月後に始まる日本でのもう一つの現実（卒業と就職、またはその他の道）の始まりがぼんやりと、しかし確実に予感され、多少戸惑うところです。

York 大学で（この留学生活を通して）学んだことは、この後も是非何らかの形で繋げていきたいと思っています。今日先生にもご指摘された通り、まだまだ英語の力（発音やジェスチャーも含め）は自分で改善していかなくてはいけないと思います。また、出席したりしなかったりでしたが、先生の日本語の授業を参観させていただいたことで、将来教師になるという選択肢も自分の中ではっきりしたものになりました。クラスや様々な機会を通して出会った友人たちを見て、いつでも勉強したい時にまた大学院などで勉強できるという考えも、すんなり受け入れられるようになった自分にも気がつきます。自分で気がついていること、いないことを含め、ほかにもたくさんここで学んだことはたくさんあると思います。それをまとめていうとこの留学生活は、意識しないうちにどこか日本のシステムの下で固まっていたかもしれない私の頭を少し柔らかくほぐしてくれたといえるでしょうか。

悔いはありませんが、あと1年あればもっと自分でもできたようには感じてしまいます。ようやく例えばエッセーの書き方、授業のこなし方、生活一般のこつなどが掴めてきたところでの帰国はやはり残念です。

人との出会いを通じて、ここで初めて興味を持ったこと、始めたことだけはきっと日本に帰っても続けていけることだと信じて、交換留学の哀しさを受け入れようと思います。

太田せんせいには突然進路の相談のようなこともしてしまったこともありますが、

日本語の授業なども通じて、たくさんのことを勉強になりました。

本当にありがとうございました。

また日本の大学などで（あるいはその他の国々で）、講演がある際にはお知らせ頂けたらうれしいです。是非伺いたいと思います。（その時の状況にも拠るとは思いますが。）

それではまた4月末まではキャンパス内でお会いすることもあるかとは思いますが、

今日はこれまでのお礼とともに感謝の気持ちを込めて。

1年間ありがとうございました。

かしこ